

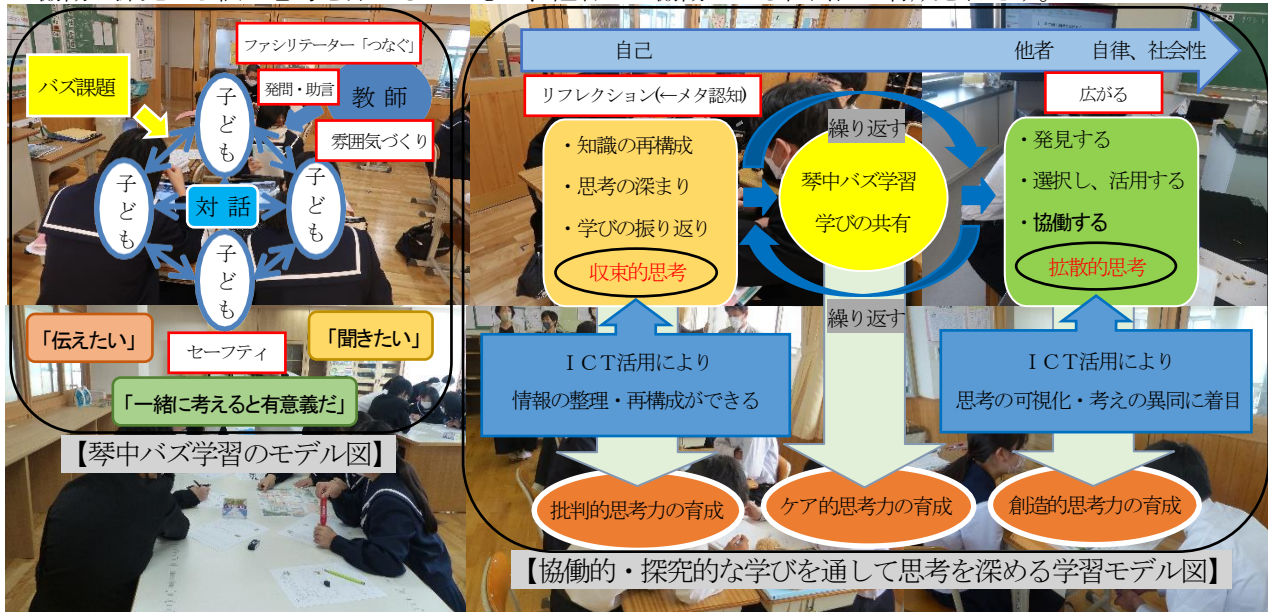
1 研究主題

社会性を育む協働的・探究的な学びの充実に向けた指導体制、方法の研究（2年次）
～ 琴中バズ学習と小中連携の実践を通して ～

2 研究の具体

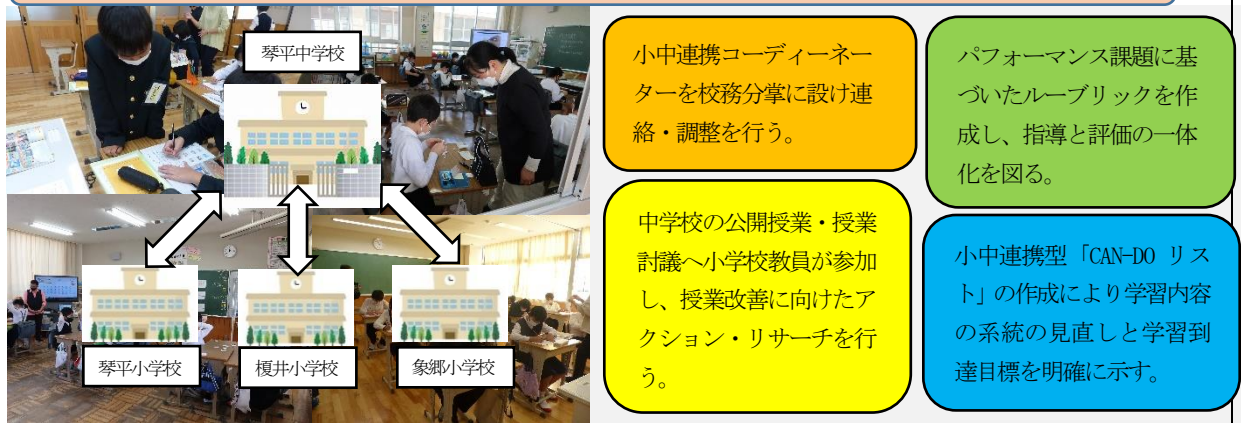
○協働的・探究的な学びのモデル

協働・探究から個の思考を深めるとともに、他者との協働による社会性の育成を目指す。



○小中連携 ※小学校高学年での中学校教員による専科授業（毎週英語科2時間、家庭科2時間）

子どもの学びの「つながり」を意識した小学校での専科授業により、義務教育9年間を見通した指導体制の構築



3 研究の検証及び改善の手立て

- ・ 「研究成果の参考とする指標」の11月の結果は、5月に比べて11項目中7項目で数値の伸びが見られた。特に、協働的・探究的な学びに関する項目は3項目全てにおいて5月の数値を上回った。また、中学校教員へのアンケート結果から琴中バズ学習も2年目を迎え、授業の中で日常化していることが伺えた。
- ・ 小学校での専科授業に対するアンケート結果から、授業が有効に機能し始めており、児童の学びに好ましい成果をもたらしつつある。昨年同様に満足度が非常に高い結果であった。

【次年度に向けて】

- ・ 自身の授業での生徒のタブレットPC活用に関する肯定的な回答は 33.3 ポイントであった。教員のICTスキルアップに向けた計画的で実効性のある研修が喫緊の課題。
- ・ 小中連携コーディネーターが核となり、小・中教員による研修機会の確保と定期的に協議を行う機会の設定、今年度作成した外国語科での小中連携型「CAN-DO リスト」を基にした授業実践。